

12 歯石除去技術向上を目指した指頭感覚訓練法の改善による効果

○木戸真紗美¹, 江川広子¹, 幸田奈美¹, 本間和代¹, 植木一範², 小林 梢³, 下河辺宏功⁴

1明倫短期大学 歯科衛生士学科, 2歯科技工士学科, 3附属歯科診療所, 4明倫短期大学

keywords : 歯石除去, 指頭感覚訓練, サンドペーパー, 探針, トレーニング

目的

歯石除去技術のさらなる向上を図るため, 筆者らの考案した指頭感覚訓練法と学業成績との相関性を調べ, 歯石付顎模型を用いて歯石除去を行い, 本訓練法の効果について比較検討した。

対象および方法

対象：本学歯科衛生士学科17年度生と18年度生, それぞれを学業成績から上・中・下位群に分け, 各群の学業成績が均等になるように17年度生21名と18年度生18名を抽出し, 指頭感覚訓練と歯石除去実験を行った。

方法：#120～#1500の9種類のサンドペーパーを2 cm × 3 cmのサイズに裁断, 2枚1組計27枚を作成し, 粗さの識別試験を1週間間隔で計3回行った。1回の試験では3回繰り返した。また, 歯石付顎模型による歯石除去実験を行い, 17年度生と18年度生を比較した。

なお, 18年度生は感覚を慣らすため, 識別試験前の6日間, 探針とサンドペーパーを用い, 所定の条件下でトレーニングを行った。また, 探針に慣れるため探針を貸与し, 自主トレーニングを行った。

結果および考察

識別試験成績は, 17・18年度生ともに試験回数を重ねる毎に向上した。しかし, スコアは18年度生が17年度生より優れていた。これは18年度生に事前の感覚トレーニングを行ったことから, 指頭の触知感覚が向上したものと考えられる。また, 識別試験成績と学業成績(図1), および歯石除去結果と学業成績(図2)は, いずれも, 上位群においては17年度生が, 中位・下位群においては18年度生が優れていた。

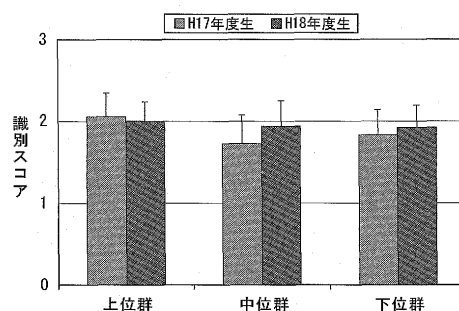


図1 識別試験成績と学業成績

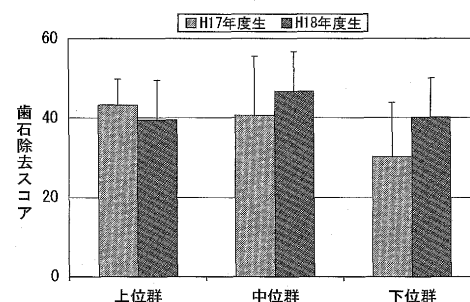


図2 歯石除去結果と学業成績

まとめ

以上のことから, 感覚トレーニングは学業成績上位群よりも, 中位群と下位群により多く効果が現れたことが伺え, 中位群・下位群の歯石除去技術向上に本訓練法が上位群より有効であることが示唆された。

文 献

- 1) Egawa H, Kobayashi K, Homma K, Ueki K, Shimokobe H: Training of fingertip tactile sensation for scaling and root planning. Dental Health, 43 (6) : 8-10, 2004
- 2) 幸田奈美, 江川広子, 木戸真紗美, 本間和代, 小林梢, 植木一範, 下河辺宏功: 学業成績と性格からみた指頭感覚訓練法による歯石除去効果, 日本歯科衛生学会雑誌, 180-181, 2006